

献血ってどうして必要なの？

病気やけがの治療などで血液を必要としている患者さんは、輸血によって命を支えられています。その輸血に欠かせないのが「献血」です。献血とは、輸血を必要とする患者さんのために、健康な人が自分の血液を無償で提供することです。医療に必要な血液は人工的につくり出すことができないため、多くの皆さんの協力によって支えられています。

献血の

Q & A

Q 薬を飲んでいたら献血はできない？

A 服薬中でも薬の種類によっては献血いただける場合があります。お薬の検索はこちらから。



Q 何歳まで献血できるの？

A 16歳～69歳まで可能です！ただし65歳以上の場合、60歳～64歳の間に献血経験がある方に限ります。

Q 献血したらどんないいことがありますか？

A 輸血が必要な人の命を救うことができます。さらに、希望すれば血液検査結果を見ることができ、自身の健康管理もできます！

Q 輸血はどんな時に使われますか？

A がんなどの病気の治療に使われる血液製剤の材料として最も多く使用されています。

大分県で献血できる場所

献血ルームわったん (トキハわさだタウン 3街区2階)

受付日 年中無休
(12月31日・1月1日は除く)

受付時間等は「献血 わったん」でweb検索！

◎ドリンクバー、無料Wi-Fi、
漫画・雑誌類等あります！



献血バス

献血バススケジュールは
「大分 献血バス」
でweb検索



アプリで
予約も簡単！



「あなたがイメージする赤十字は？」写真募集

日本赤十字社は2027年に150周年を迎えます。これを記念し、当支部では2027年4月から5月にかけて特別展【ライフ・イズ・ラブ】展を開催します。本特別展で展示する写真作品として「あなたがイメージする赤十字は？」をテーマに写真を募集します。

日常の中で撮影した写真など、特別な写真でなくても大丈夫です。あなたがイメージする赤十字や、赤十字を身近に感じた時、災害時に赤十字に支えられた経験、献血や赤十字病院での体験や出来事など、ぜひ、あなたの想いを写真と言葉で教えてください。

応募締め切り 2026年11月30日(月)

ご応募はこちらから
(Googleフォーム)



※Googleフォームからの応募が難しい場合は、メールでもご応募いただけます。

メール応募

①ニックネーム
②写真(JPEG、PNG等の画像ファイル、10MB以内)
③写真に込めた想いやエピソード(30～80文字)
上記内容を送信してください。
送信先: jrc-oita@oita.jrc.or.jp
(件名: 写真応募(赤十字150周年))
※応募をもって注意事項を確認し、特別展・広報等での使用に同意したものとみなします。

注意事項



※ご応募にあたり、必ず注意事項をご確認ください。



赤十字クイズ

日本赤十字社では、1926年に講習事業を開始し、今年で100周年を迎えます。さて、1949年に開始された講習は、次のうちどれでしょう？

- 1 幼児安全法講習
- 2 健康生活支援講習
- 3 水上安全法講習

ヒント

日赤おおいをよよく読んでみよう！

10名様に当たる！



正解者の中から抽選で
ハートラちゃんキャンバスミニトート
をプレゼント！



ご応募は
こちらから

2026年9月30日(水)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

日本赤十字社 大分県支部
Japanese Red Cross Society

〒870-0033 大分市千代町2丁目3番31号
TEL(097)534-2236 FAX(097)533-6795

日赤大分

検索

「日赤おおい」のバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

大分赤十字病院

〒870-0033
大分市千代町3丁目2-37
TEL(097)532-6181
FAX(097)533-1207

大分県赤十字血液センター

〒870-0889
大分市大字荏隈717-5
TEL(097)547-1151
FAX(097)547-1141

献血ルーム・わったん

〒870-1198 大分市大字玉沢字楠本755番地の1
「トキハわさだタウン」3街区2階
TEL(097)574-6822
FAX(097)542-5777

予約専用フリーダイヤル
0120-489-150

回覧

班回覧

日赤おおい」た

No.

71

2026年度 Vol.2



赤ちゃんの入浴法を学ぶ 赤十字家庭看護法の講習風景(1950年代)

赤十字の講習事業が100周年を迎えます



いのちをまもる勇気
つないだ100年
これからも

時代は変わりました。

社会も、災害のかたちも変わりました。けれど、変わらなかったものがあります。それは、支えてくださる人の存在です。

赤十字の講習事業が100周年を迎えます

100年
の歩み

今から100年前、生活用水は井戸から、トイレも水洗でなく汲み取り式がほとんどでした。手洗い、うがい、歯磨きなど、今ではあたりまえの生活習慣も、当時は常識ではありませんでした。病院も少なく、乳児の死亡率や結核の罹患率の高さなども影響して、平均寿命は50歳に満たない時代だったのです。そのような時代に、日本赤十字社は救急や看護のノウハウをわかりやすく一般市民に伝える講習事業を開始しました。

大正15年
(1926年) ● 衛生講習会スタート

昭和8年
(1933年)

昭和9年
(1934年) ● 救急法スタート

昭和21年
(1946年) ● 家庭看護法(現: 幼児安全法、健康生活支援講習)スタート

昭和24年
(1949年) ● 水上安全法スタート

昭和34年
(1959年) ● スキーパトロール救急法(現: 雪上安全法)スタート

平成9年
(1997年)

平成12年
(2000年)

平成16年
(2004年)

平成21年
(2009年)

令和8年
(2026年)



雪上安全法スタート



AEDを導入



健康生活支援講習スタート



水上救助法(現: 水上安全法)スタート



幼児安全法スタート



赤十字講習100周年

日常のいざという時に備える



救急法講習

心肺蘇生法やAEDの使い方など、「いざという時に命を救う対応」を学びます。

水中の安全を身につける



水上安全法講習

水の事故予防や、身近なもの(ペットボトルやナイロン袋)での自己保全、溺者の救助方法などを学びます。

高齢者を健やかに過ごす



健康生活支援講習

高齢期に多い事故の予防と手当、介護の方法(車いすでの移動・食事・排泄)災害時支援について学びます。

子どもの「もしも」に備える



幼児安全法講習

乳幼児への心肺蘇生、AEDの使い方、子どもに多い事故や看病の仕方について学びます。

講習についての
詳細はこちらから



開催予定の
講習はこちらから



土器屋 美貴子 さま

- どんな活動をしていますか
救急法と健康生活支援講習の指導員として、反応のない人への対応や災害関連死を防ぐ方法などを伝えています。
- 救急安全奉仕団に加入したきっかけは
かつて赤十字で看護を学びました。47歳の転機に「人生でやり残したこと」として赤十字活動が浮かんだためです。
- 活動を続けて良かったことは
講習で人前に立つことが心身の健康や成長に繋がっており、自分自身も大切な講習内容を復習できることです。
- 赤十字ボランティアに参加して知ったことは
佐野常民に惹かれた私以上に、赤十字を愛する仲間や真摯な市民に活動が支えられていることです。



徳永 龍貴 さま

- どんな活動をしていますか
水上安全法指導員となり、県内の小中学校に水難事故減少を目的とした「浮いて待つ」着衣泳講習会の普及を行っています。
- 赤十字でボランティア指導員になったきっかけは
初めは水上安全に関する知識や技術を習得して自分の仕事やボランティア活動に役立てたいと思いました。
- 活動を続けて良かったことは
社会貢献でき、やりがいを感じています。水難事故減少、そして周囲の悲しみを防ぐことができればと思います。
- 赤十字ボランティアに参加して知ったことは
日本赤十字社の掲げる使命や基本原則、携わる人の想いや活動を知ることができ、多くの学びにつながりました。今後は救急法指導員の資格も取り、活動の幅を広げたいと思っています。



日本赤十字社は2027年に150周年を迎えます。

これを記念し、当支部では2027年4月から5月にかけて特別展【ライフ・イズ・ラブ】展を開催します。本特別展で展示する写真作品として、「あなたがイメージする赤十字は？」をテーマに写真を募集。詳細は裏へ